

平成29年度
高速道路調査会 研究発表会

高速道路の料金制度に関する研究

公益財団法人 高速道路調査会
研究第一部 宮田 真吾

本日の発表

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会
2. 報告書「有料道路制度と負担のあり方について」
3. 報告書公表以降の研究内容
4. 今後の研究について

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会

研究の目的

高速道路の料金制度の歴史・課題について整理



高速道路ネットワークの有効活用および機能の維持に資する中長期的な料金制度（体系・水準など）を多角的な観点から検討



《目的》

あるべき料金制度の基本的な考え方を整理

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会 委員会メンバー

平成29年7月1日現在

| | | |
|-----|-------|-----------------|
| 委員長 | 杉山 雅洋 | 早稲田大学 名誉教授 |
| 委員 | 家田 仁 | 政策研究大学院大学 教授 |
| 委員 | 石田 東生 | 筑波大学 特命教授 |
| 委員 | 加藤 一誠 | 慶應義塾大学商学部 教授 |
| 委員 | 竹内 健蔵 | 東京女子大学現代教養学部 教授 |
| 委員 | 橘 洋介 | 広島修道大学商学部 助教 |
| 委員 | 田邊 勝巳 | 慶應義塾大学商学部 教授 |
| 委員 | 根本 敏則 | 敬愛大学経済学部 教授 |

(敬称略、50音順)

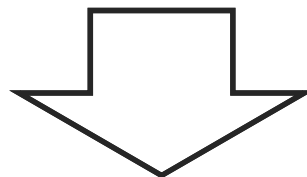
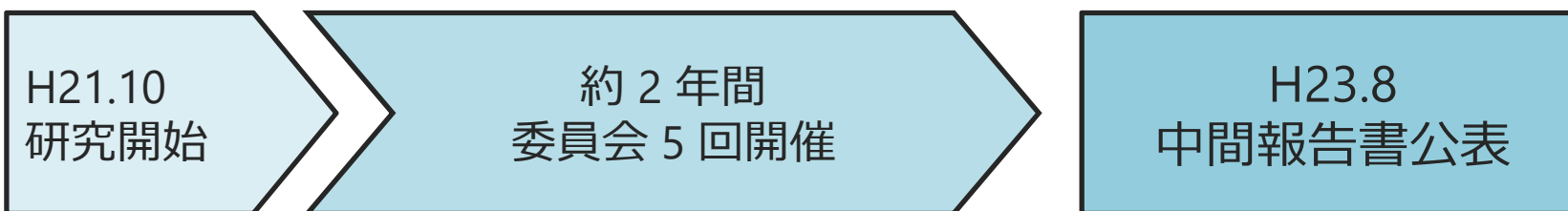
- 有識者委員 8名 (上表)
- 会社委員 11名
(道路会社6社など)

計 19名

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会 これまでの経緯

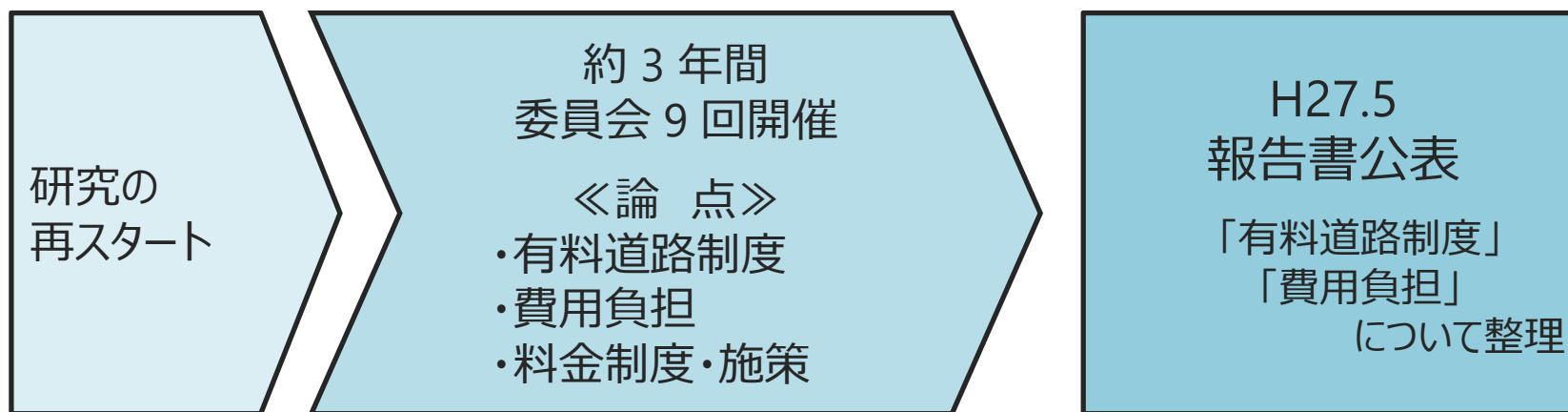
《整理①》

「高速道路の料金制度のあり方について」



《整理②》

「有料道路制度と負担のあり方について」



本日の発表

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会

2. 報告書「有料道路制度と負担のあり方について」

3. 報告書公表以降の研究内容

4. 今後の研究について

2. 報告書「有料道路制度と負担のあり方について」 報告書の概要（H27.5公表）

① 有料道路制度の基本的考え方

- ・ 高速道路を整備推進するための特別措置（道路無料公開原則に反する）
- ・ 償還満了後は無料開放
- ・ 償還満了後の管理費は税金で賄う

② 時代背景の変化と高速道路

- ・ ETCの普及、ネットワークの概成により高度な機能とサービスを提供
- ・ 償還対象経費に含まれていない大規模更新の必要性
- ・ 維持管理費を税収で賄うことは困難
- ・ 道路無料公開原則の適用を検討する余地（有料の道路の可能性）

③ 将来の有料道路制度

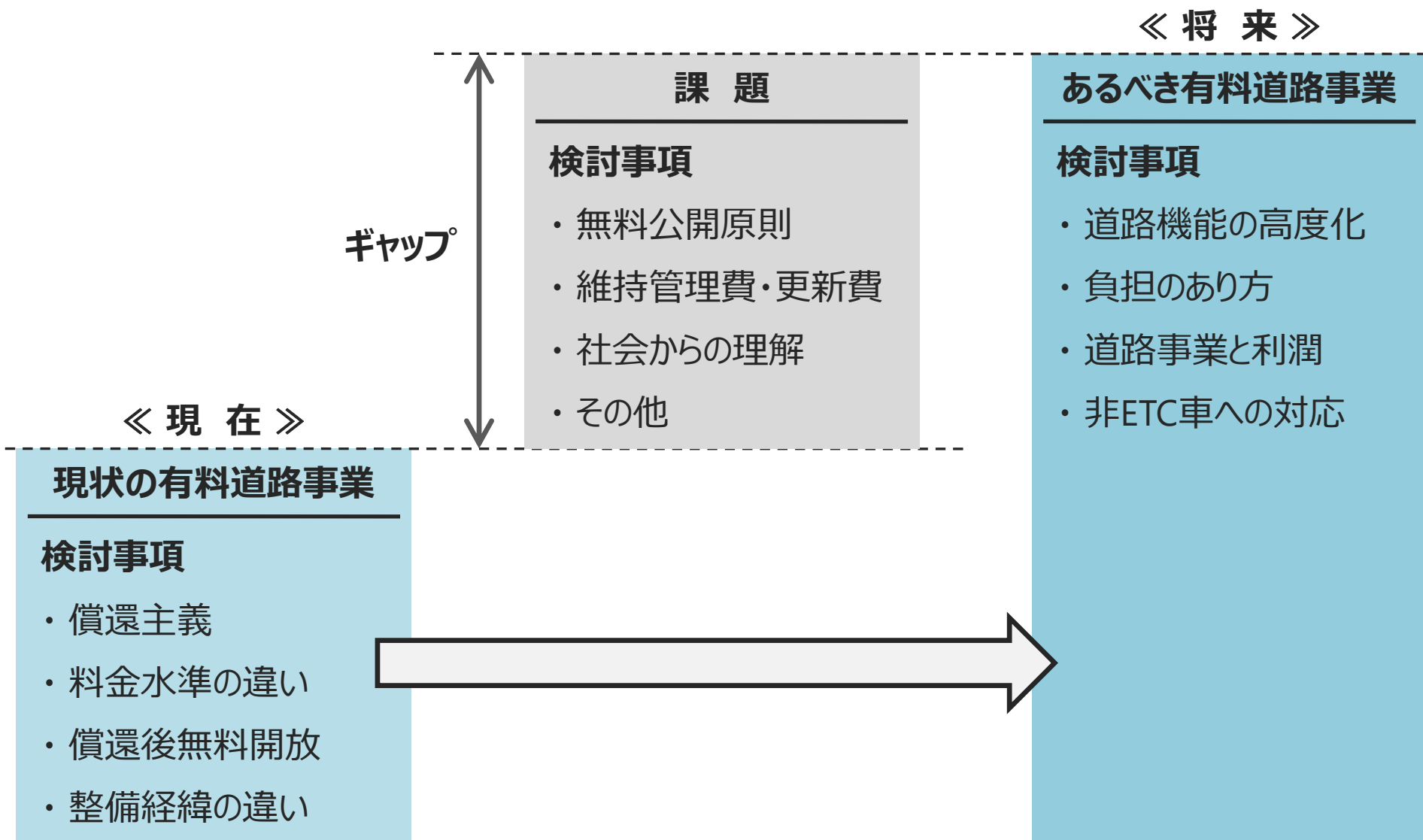
- ・ 維持管理費と更新費の負担をどう考えるのか（税金負担、有料継続など）
- ・ 諸外国（特に先進国）では無料から有料への傾向が見られる
- ・ ソーシャル・アクセプタンス（社会的受容性）が重要

本日の発表

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会
2. 報告書「有料道路制度と負担のあり方について」
- 3. 報告書公表以降の研究内容**
4. 今後の研究について

3. 報告書公表以降の研究内容

議論・検討内容 ① : 検討事項



3. 報告書公表以降の研究内容

議論・検討内容 ② : 道路無料公開原則

1. 道路無料公開原則の根拠とは？

道路の有効利用の要請と高い利用料金徴収コストが根拠だと考えられる

- ① 利用者の特定が困難（非排除的）
- ② 利用料金徴収コストが高い
- ③ 利用料金徴収に伴う道路混雑により有効利用を阻害

2. ETCが普及した高速道路にあてはめてみると・・・

- ① 利用者と利用区間の特定が可能（非排除性が無くなった）
- ② 利用料金徴収コストが低下
- ③ ETCにより料金所渋滞が減少

3. そもそも高速道路と一般道路は性格が違うのでは？

高速道路：特定区間を車両で高速移動することしかできない人為的に造られた空間

一般道路：移動のみではなく人的活動が可能な自然発生的な空間

⇒ **高速道路も一般道路と同じく無料公開原則の対象なのか？**

※国土交通省 国土幹線道路部会 中間答申(H27.7.30) 基本方針に関するデータ集P20参照

3. 報告書公表以降の研究内容

議論・検討内容 ③ : 維持管理費・更新費 その1

1. 維持管理費・更新費とは？

安全に高速走行できるという高速道路の機能を永続的に保つための費用

維持管理費

- ・ 道路を常時良好な状態に保つために日常的に要する費用
- ・ 損傷した道路構造物の機能を都度復旧するために要する費用

+

更新費

- ・ 補修を実施しても長期的に機能が保てない構造物を再施工する費用
- ・ 償還対象経費ではない

償還満了後も必要となる費用

2. 償還制度と更新費

- ・ 償還対象経費とは、道路建設費用、維持管理費、利息等からなる総費用
⇒ 過去にかかった費用をいかに返済するかという視点
- ・ 「更新」という概念は償還制度の中にはない
⇒ 適切に維持管理すれば高速道路の機能や価値が損なわれないとの想定

3. 報告書公表以降の研究内容

議論・検討内容 ④：維持管理費・更新費 その2

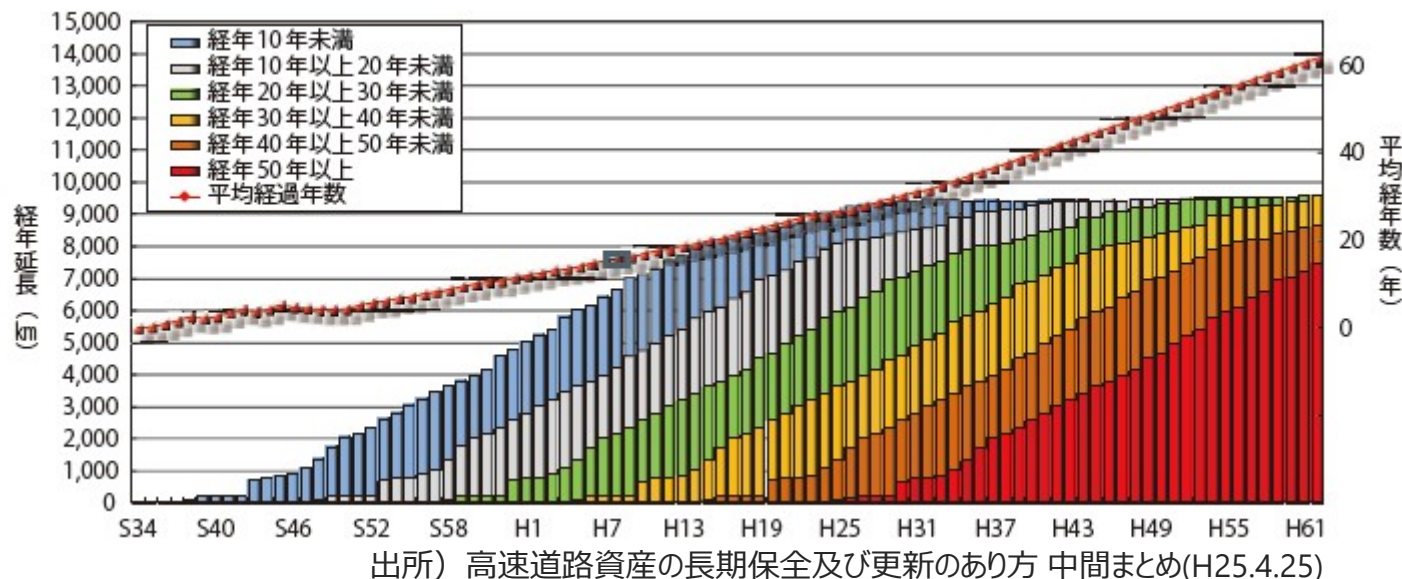
3. 高速道路を維持するために必要な金額の推計値（高速道路会社6社合計額）

- ・ 路線の延伸、経年劣化もあり、多額の維持管理費・更新費が必要となる
- ・ 当面の間の大規模更新費として総額約4.7兆円※1、維持管理費として毎年約7,700億円※2

※1「高速道路機構ファクトブック2016」中、会社の収支予算の明細における「更新費等」の合計額

※2「高速道路機構ファクトブック2016」中、会社の収支予算の明細における「計画管理費」と「修繕費等」の合計額を年平均した数値

高速道路の経過年数の推移（NEXCO3社分）



⇒ 償還満了後に税金のみで高速道路を維持することは困難では？

3. 報告書公表以降の研究内容

議論・検討内容 ⑤ : まとめ

1. 道路無料公開原則

- ・ ETCにより利用者と利用区間の特定が可能となり、かつ徴収コストも低下
- ・ 一般道路と同じように高速道路に無料公開原則をあてはめるのか
- ・ 長期平均費用を払っていただく、「受益者負担」でよいのではないか

2. 償還満了後の維持管理費および更新費の財源

- ・ 償還満了後も多額の維持管理費・更新費が必要となる
- ・ 「無料 = 税負担」とするのか
- ・ 「受益者負担」についても考慮すべきなのでは
- ・ 「新たな負担」ではなく、今も負担いただいているもの

3. イノベーションに対応した高速道路機能のアップグレード

- ・ 自動運転やお客さまニーズに応えるための財源をどうするのか

4. ソーシャル・アクセプタンス（社会的受容性）

- ・ 税や料金という形で償還満了後も負担が必要であるとの説明

本日の発表

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会
2. 報告書「有料道路制度と負担のあり方について」
3. 報告書公表以降の研究内容

4. 今後の研究について

4. 今後の研究について

H26年度まで

論点①

有料道路制度

論点②

費用負担

H27.5公表の報告書で
検討・整理

H27年度以降

論点③

料金制度・施策

現在、研究中

報告書として公表

〔今後の調査研究テーマ〕

- ✓ 将来のあるべき高速道路の姿
- ✓ 維持管理・大規模更新
- ✓ 高速道路機能を維持する仕組み

ご 清 聴 ありがとうございました

下記ウェブサイトにて報告書を掲載しておりますので、
ぜひご覧ください。

<http://www.express-highway.or.jp/jigyo/kenkyu/report/2015/>